

カジノ・IR事業の停止を求める再度の意見書

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて延期されていた青葉区のカジノ・IRの市民説明会については「感染症の収束が見通せず、会場に市民を集めるという従来の方法が続けるのは困難」として開催を断念する方針であることが報じられました。こうした事態は、まさに、大規模集客施設であるカジノ・IR事業の課題をも浮き彫りにしました。

もはや、コロナ以前と同じ暮らしを続けていくことは不可能です。困難や不安を抱えながらも、様々な制約を受け入れ、多くの市民が自制的に暮らしています。人と人が繋がりがづらい社会で、一人ひとりの痛みは見えづらく、互助・共助といったしくみにも大きな制約が生じています。市長には、市民の暮らしに最も近い自治体政府の長として、共に地域のセーフティネットの再構築に取り組んでいただきたく以下意見を述べます。

1 コロナ禍におけるIR事業者の状況

厳しいコロナ禍の状況下で、横浜IR事業への進出が予想されている事業者の経営状態は、横浜IR事業および横浜市財政に影響を及ぼすものとして当然把握されるべきと考えます。刻々と変化する情勢を前に、「事業者公募・選定する際には明らかにする」という姿勢ではいささか心許なく思えます。IR事業の現況、今後の見通しについてどのように把握、分析されていますでしょうか。把握できないとすれば、どのような理由か明快にお答えください。

2 市民説明会

青葉区を含む6区のカジノ・IRに関する市民説明会は、動画配信に代えて実施し、市が市民に代わり想定質問を作成し、回答すると伝えられています。こうした自作自演の取り組みが市民説明会を代替するものとは思えません。見解を伺います。

3 危機感のないPR動画の削除

横浜IRへの進出を断念したラスベガス・サンズに限らず、多くのカジノ事業者の経営状況の悪化が報じられています。これまで市民に説明してきたIR事業者からの情報提供に基づく経済効果や増収効果に対する疑義も益々大きくなっています。さらに、「3密」の状況が懸念される大規模集客施設「カジノ・IR」事業について、全くの懸念も対策も表明されないPR動画を提供し続ける状況は、市長のマネジメント能力が問われるものです。自制的に暮らす市民のマインドともかけ離れています。早急にPR動画の削除をすべきと考えます。見解を伺います。

4 事業計画の検証

以上、必要な検証と対策を進めるためにIR事業の進行計画を見直すべきです。

真に持続可能な地域づくりのために、即時にカジノ・IR事業を停止し、政策転換をすべきと再度強く申し入れます。

生活クラブ運動グループ・横浜未来アクション青葉
神奈川ネットワーク運動・青葉
事務局 霜山恵子・青木マキ

【連絡先】横浜市青葉区市ケ尾町1151-1-203
net-aoba@nifty.com